福岡市埋蔵文化財調査報告書第1476集

那　珂　89

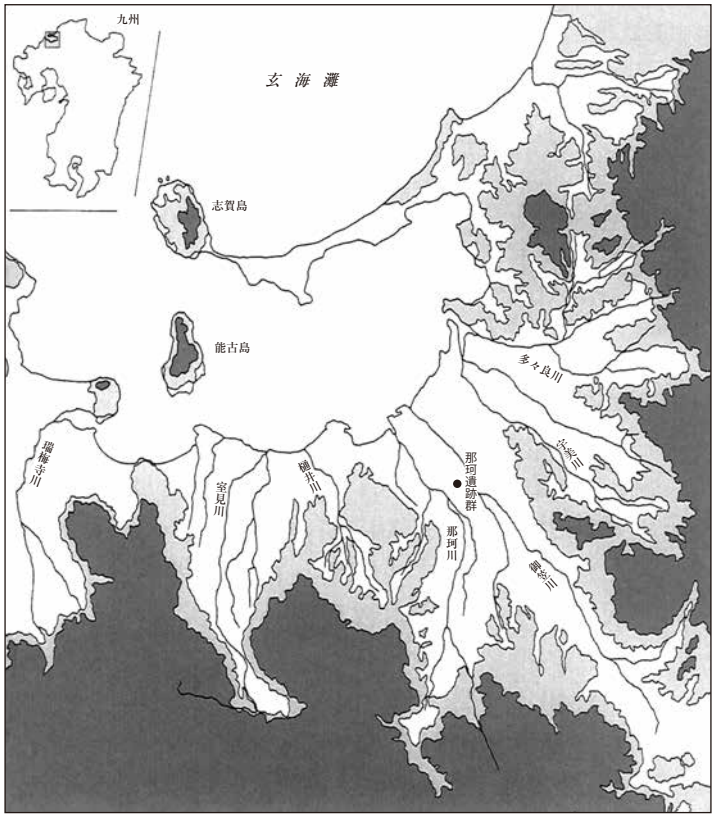
— 那珂遺跡群第187・188次調査報告 —

２０２３

福岡市教育委員会

那　珂　89

— 那珂遺跡群第187・188次調査報告 —



遺跡略号 NAK － 187・188
調査番号 2119・2120

２０２３

福岡市教育委員会

那珂遺跡群 187 次調査区　北より

那珂遺跡群 187 次調査区　北東より

那珂遺跡群 188 次調査区　（南より）

序

福岡市は玄界灘を介して大陸・半島と一衣帯水の関係にあり、古くから交流がおこなわれてきました。なかでも博多湾岸部には、先史時代から中・近世にかけての遺跡が数多く存在します。近年の都市化により失われる文化財を保護し、後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、福岡平野に立地する那珂遺跡群第 187・188 次調査について報告するものです。この発掘調査では古代の掘立柱建物が検出され、弥生時代から古墳時代、近世にかけての遺物が出土しました。これらは郷土の歴史の解明するうえで重要な資料となるものです。

本書が文化財保護にたいする理解を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご指導を賜りました。心より御礼申し上げます。

令和 5 年 3 月 23 日

福岡市教育委員会

教育長　石橋　正信

例言

1．本書は福岡市が、令和３年度に福岡市博多区東光寺町１丁目で実施した那珂遺跡群第 187・188 次調査の報告書である。
2．第 187 次調査の発掘調査および整理報告書作成は、受託事業・国庫補助事業として実施した。
3．第 188 次調査の発掘調査および整理報告書作成は、国庫補助事業として実施した。
4．実測図作成および写真撮影の実施は、以下のとおりである。

業　務　内　容	担当者
遺構実測図作成	常松 幹雄、藤野 雅基
遺構写真撮影	常松
遺物実測図作成	山崎 龍雄
遺物写真撮影	常松
製　　図	常松、山崎 龍雄、山崎 賀代子

5．本文に掲載した公共座標は世界測地系である。
6．本文中に掲載した方位は、座標北を示す。
7．本書に使用した国土地理院データは福岡市 WEBGIS の情報をもとに作成したものである。
8．本文中に使用する遺構略号とその性格は、以下のとおりである。
SB：掘立柱建物　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　P：柱穴　SX：その他の遺構
9．本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
10．本書の編集・執筆は常松が行った。

遺跡名	那珂遺跡群	調査次数	187 次	調査略号	NAK － 187
調査番号	2119	分布地図図幅名	037 東光寺	遺跡登録番号	0085
調査地	福岡市博多区東光寺町１丁目 240・243・244 番			調査面積	210㎡
調査期間	令和３（2021）年７月 19 日～令和３（2021）年９月 14 日				
整理期間	令和４（2022）年４月　１日～令和５（2023）年３月 31 日				

遺跡名	那珂遺跡群	調査次数	188 次	調査略号	NAK － 188
調査番号	2120	分布地図図幅名	037 東光寺	遺跡登録番号	0085
調査地	博多区東光寺町１丁目 240・243・244 番の各一部			調査面積	86.25㎡
調査期間	令和３（2021）年８月 26 日～令和３（2022）年９月 13 日				
整理期間	令和４（2022）年４月　１日～令和５（2022）年３月 31 日				

本文目次

Ⅰはじめに …… 1
Ⅱ位置と環境 …… 2
Ⅲ調査の記録 …… 5
Ⅳまとめ …… 12

Ⅰはじめに

1．調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、令和３年３月10日と６月22日、個人事業者から提出された福岡市博多区東光寺町１丁目240・243・244番における埋蔵文化財の有無についての照会を受理した（事前審査番号2020 － 2 － 1048、2021 － 2 － 318）。これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれることから令和３年６月８日、試掘調査を実施した。

試掘調査によって、申請地の地表面下において遺構の存在が確認されたことから協議を行った。その結果、予定建築物にたいして埋蔵文化財への影響は回避できないとみられることから、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

令和３年７月に事業者と福岡市で委託契約書と協議書を交わした。発掘調査は共同住宅範囲を187次調査とし令和３年７月19日から令和３年９月14日にかけて行い、専用住宅範囲を188次調査として令和３年８月26日から令和３年９月13日にかけて行った。令和４年度に資料整理および報告書作成を実施した。

関係者には発掘現場の条件整備について迅速かつ適切な対応をはかっていただいた。

2．調査の組織

調査委託：個人事業主
調査主体：福岡市教育委員会
（発掘調査：令和３年度・資料整理：令和４年度）
調査総括：文化財活用部埋蔵文化財課課長　菅波 正人
同課調査第１係長　本田浩二郎
同課調査第２係長　藏冨士 寛（令和３年度）
井上 繭子（令和４年度）
調査庶務：文化財活用課　井出 瑞江（令和３年度）
内藤　愛（令和３・４年度）
事前審査：埋蔵文化財課 事前審査係長　田上勇一郎
同課事前審査係 文化財主事　山本 晃平（令和３年度）
三浦 悠葵（令和４年度）
調査・報告担当：同課 主任文化財主事　常松 幹雄

Ⅱ位置と環境

比恵・那珂遺跡群は、福岡平野の中央部、那珂川と御笠川にはさまれた標高５～13ｍの洪積低丘陵上に展開する総面積140haの大規模な複合遺跡である。調査地は、那珂遺跡群の北、東光寺剣塚古墳の東の標高９ｍほどの丘陵上に位置している。

東光寺村は那珂郡に属し、御笠川の下流域、比恵村の南に位置する。『続風土記』によると、村名はかつて「東光寺」があったことに由来する。産神は吉備津社で、社内に天台宗大日寺がある『続風土記拾遺』。

東光寺剣塚古墳は標高10ｍほどの洪積低丘陵上に築かれた前方後円墳で、６世紀中頃の福岡平野最後の大型古墳である。『続風土記』に東光寺村の「剣塚」と記されている。古墳は主軸を北東に向けた全長75ｍで後円部径46ｍ、前方部幅59ｍの二段築盛で三重の周濠が巡り、総長約126ｍ。南に開口する横穴式石室で、後室奥に阿蘇凝灰岩製の切石を用いた石屋形が設置されている。三重目の周濠東の造り出し部付近から人物・馬・盾などの形象埴輪が見つかっている。東光寺剣塚古墳の北では小型の前方後円墳、剣塚北古墳が確認された。

調査区の東に接した143次調査では古墳時代前期の竪穴住居跡３基、２間３間の総柱建物跡１棟、井戸１基、８世紀代の井戸１基、中世後半の溝１条と地下式土坑２基が確認された（福岡市教育委員会2014）。

今回の187・188次調査では、弥生終末期の溝１条、古墳時代から古代の掘立柱建物１棟、柱穴のほか近世の溝１条が検出された。

出土遺物は、弥生終末期の器台や支脚、柱穴では６世紀後半から８世紀頃の須恵器や土師器が出土した。近世の溝と土坑では陶磁器類が出土した。

古墳時代から古代の掘立柱建物、柱穴は九州北部の６世紀後半から８世紀頃の様相を解明するうえで重要である。

【参考文献】

貝原益軒・伊東 尾四郎 1988『筑前国続風土記』増補版、文献出版
『筑前国続風土記』は、福岡藩が元禄元年（1688年）に、福岡藩の儒学者・貝原益軒を著者とし、甥の貝原好古、高弟の竹田定直らが編纂した筑前国の地誌である。
※平凡社 2004「福岡県の地名」『日本歴史地名大系』第41巻
福岡市教育委員会 2014「福岡市埋蔵文化財年報 vol.28―平成25（2013）年度版―」13頁

図１　那珂遺跡群 187・188 次調査地点（1／40,000）　■ 調査地点　1 東光寺剣塚古墳　2 那珂八幡古墳

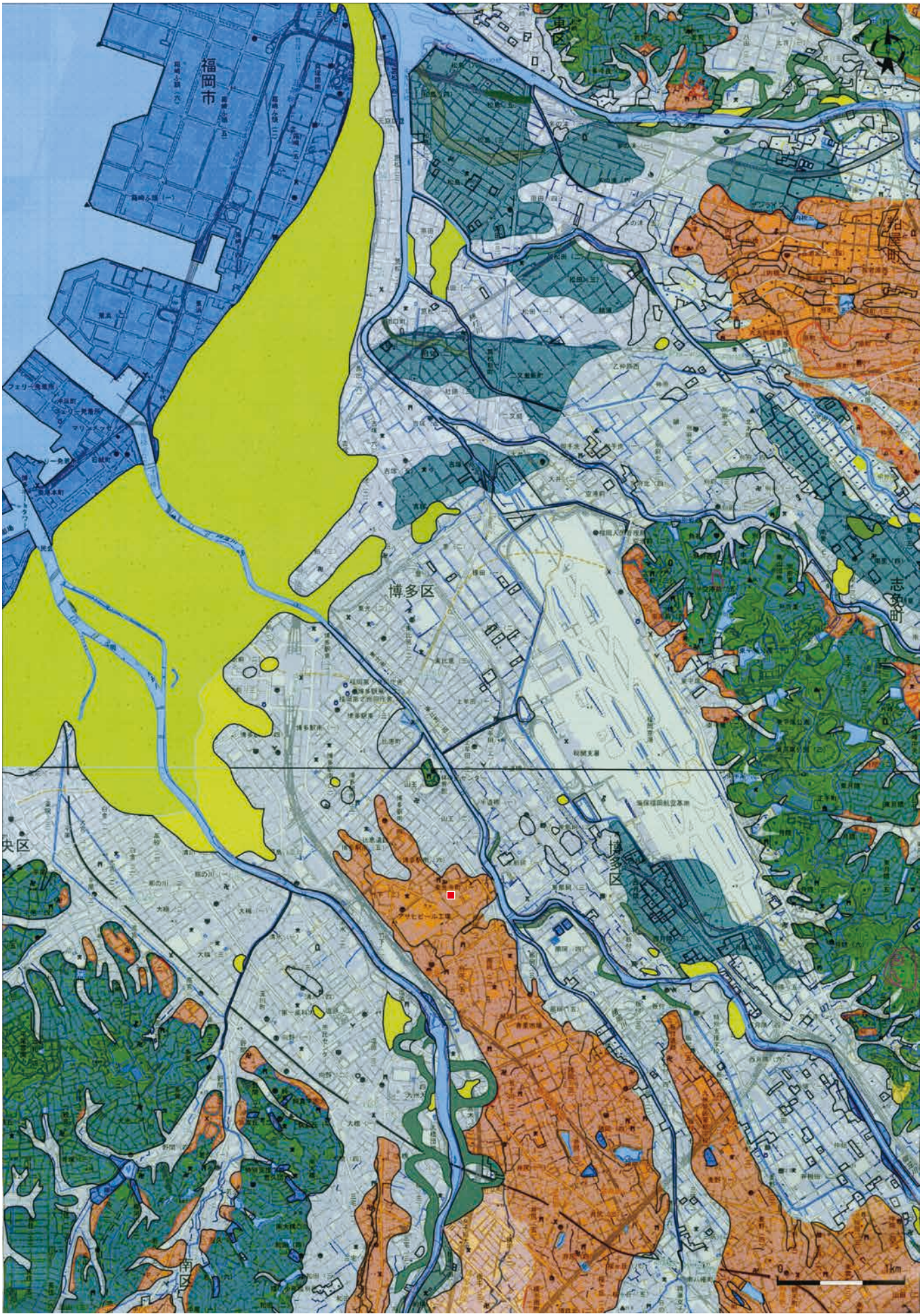


図２　那珂遺跡群 187・188 次調査区の立地（1／40,000）　■ 調査地点

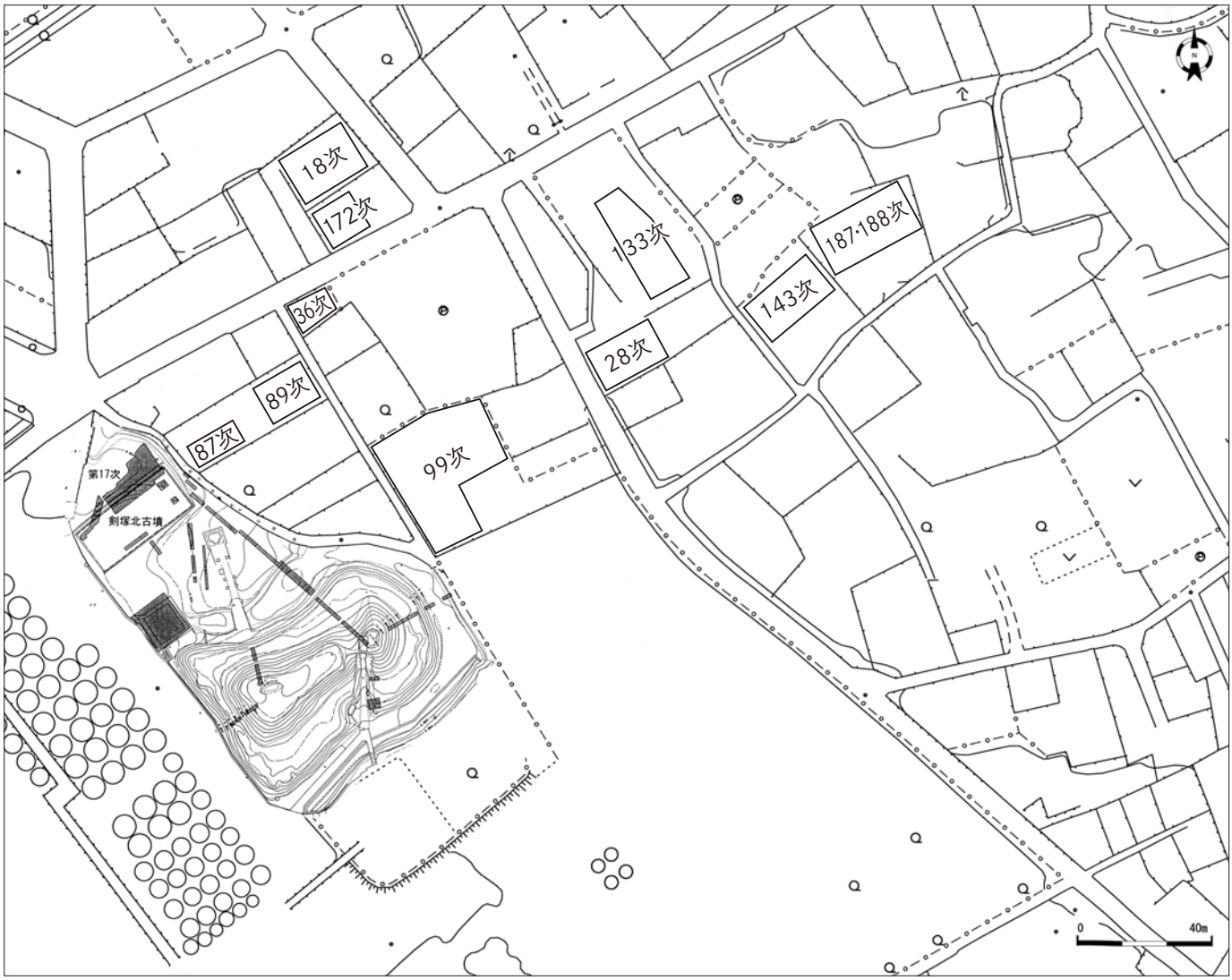


図３　那珂遺跡群 187・188 次調査区位置図（1 ／ 2,000）

Ⅲ調査の記録

（1）調査の概要

那珂遺跡群は、福岡平野の中央部、那珂川と御笠川にはさまれた標高 9 mほどの丘陵上に位置する。調査地は、那珂遺跡群の北、東光寺剣塚古墳の東 130 mに立置している（図３）。

発掘調査は共同住宅範囲約 210㎡を 187 次調査区として着手した（図５）。掘削の結果、187 次調査区の北側と南側は図 6 に示すとおり広い範囲で攪乱を受けていた。地山は暗褐色の火山灰の堆積層である。遺構が遺存しているのは東西 18 m、幅 2.0 mから 5.0 mの約 80㎡の範囲に限られている。

検出遺構は、柱穴を主体とし古墳時代から古代の掘立柱建物 SB01、柱穴のほか近世の溝 SD01 が検出された。

187 次調査区の東側の専用住宅が予定されている箇所を 188 次調査として令和 3 年 8 月 26 日に着手した。こちらは調査区の中央部分に広い範囲で攪乱を受けていた。

検出遺構は柱穴のほか調査区東端で溝状遺構の落ち際 SX51 が検出された。令和 3 年 9 月 13 日に埋戻しを行い、翌日機材を撤収し、記録保存調査を終了した。

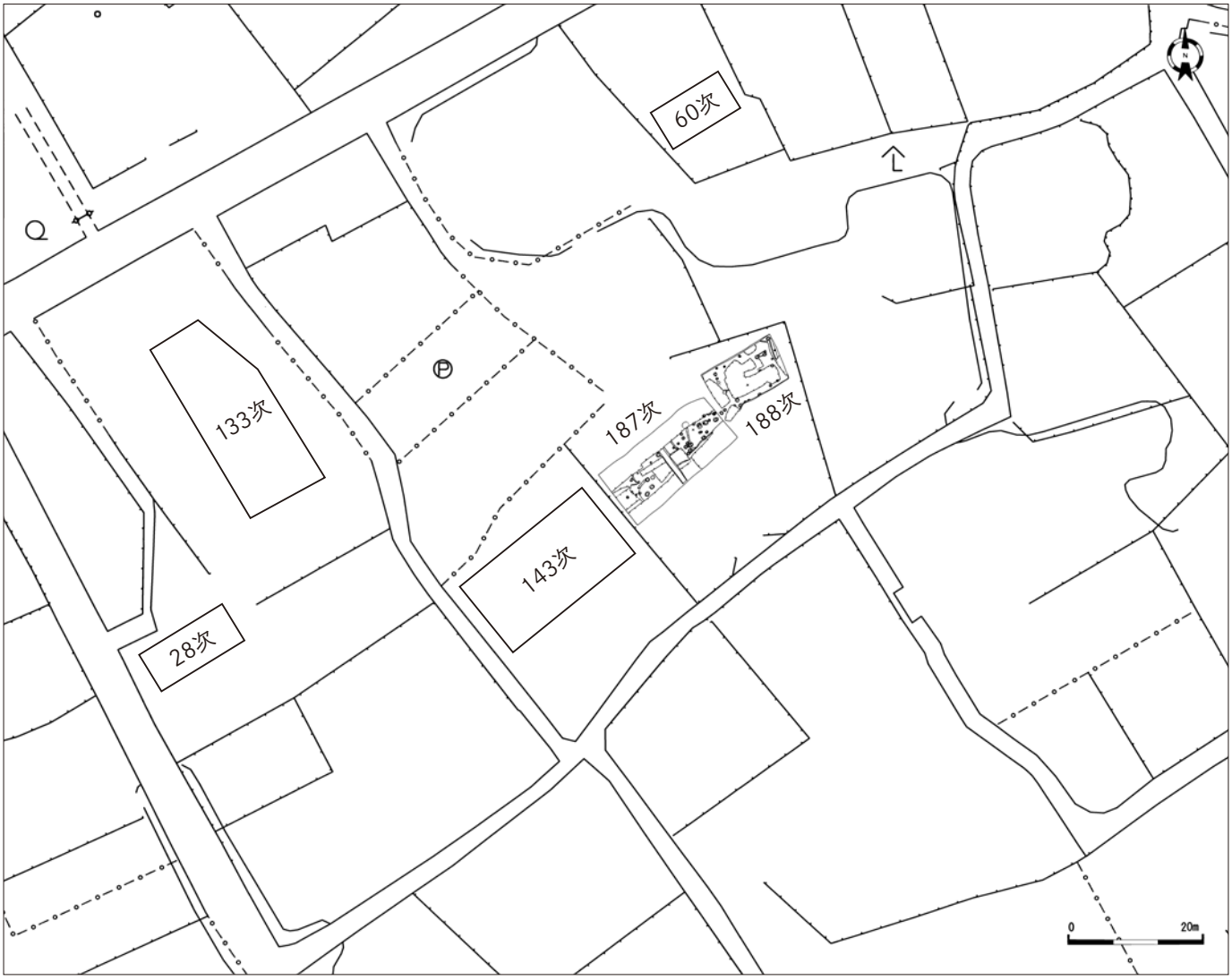


図４　那珂遺跡群 187・188 次調査区位置図（1 ／ 1,000）

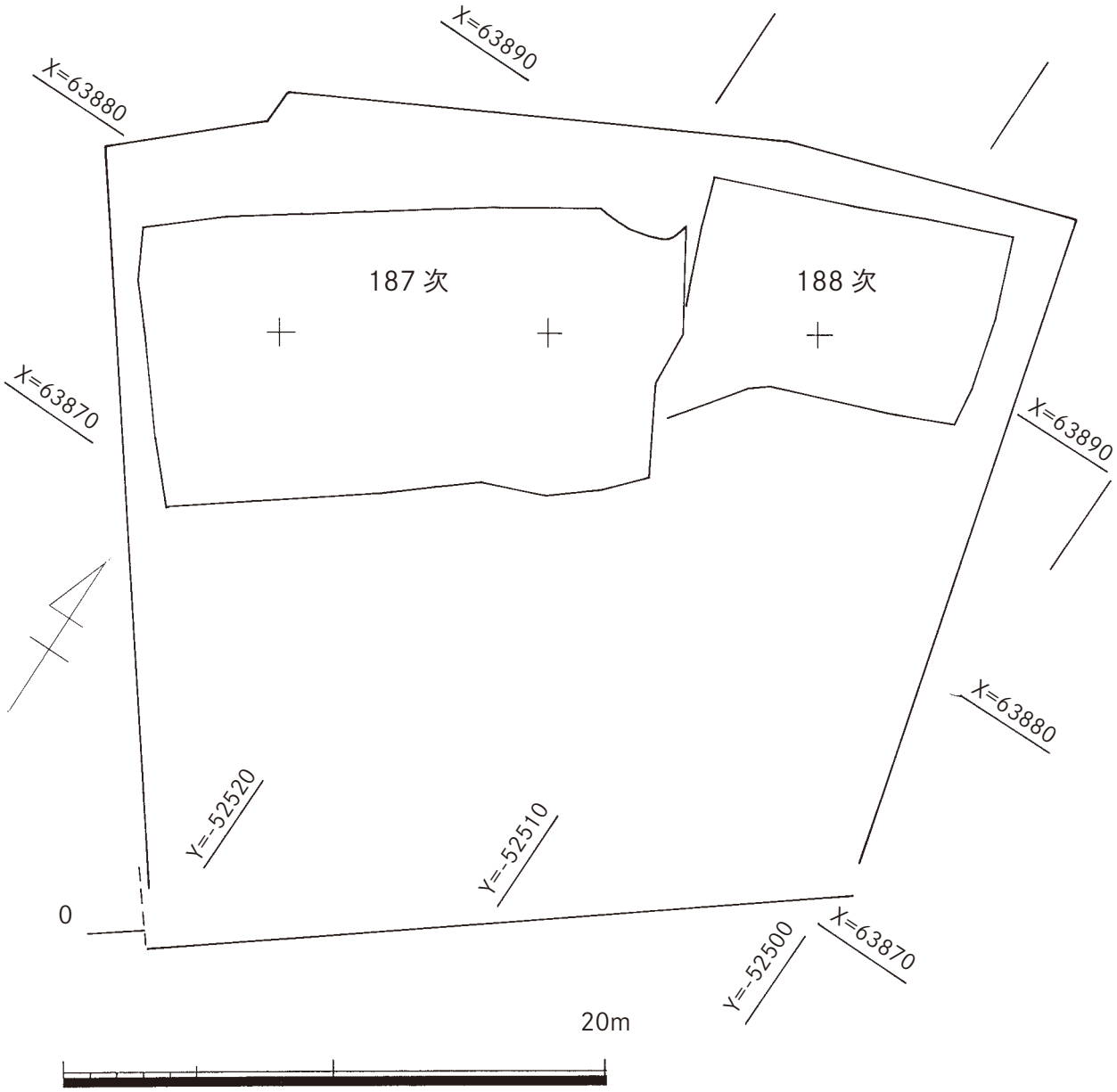


図５　那珂遺跡群 187・188 次調査区配置図（1／250）

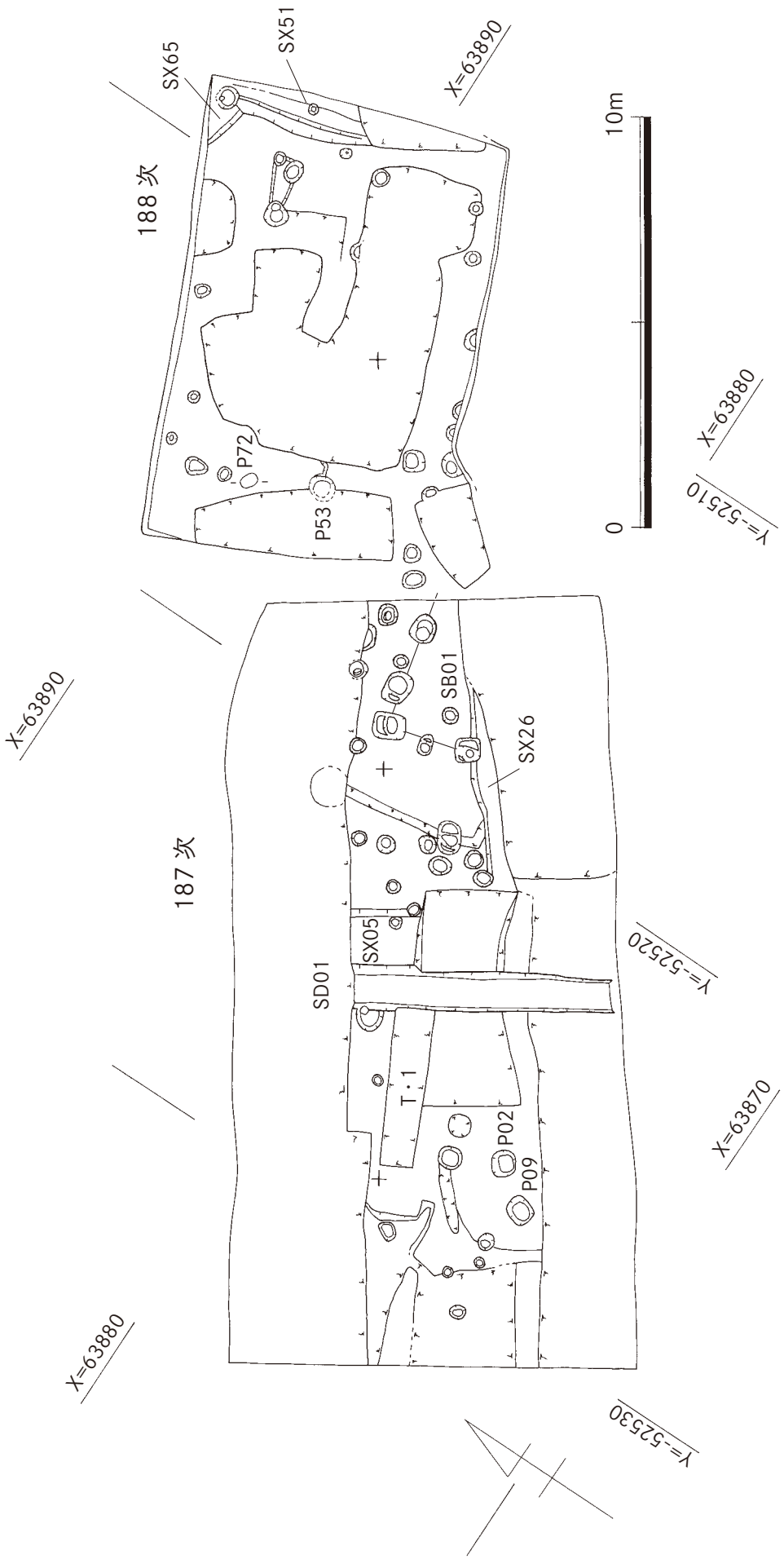


図６　那珂遺跡群 187・188 次調査区遺構配置図（1／150）

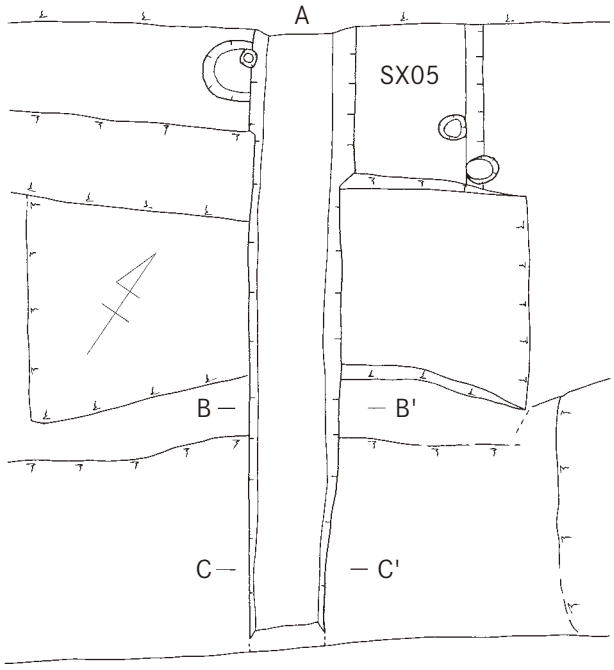
（2）検出遺構

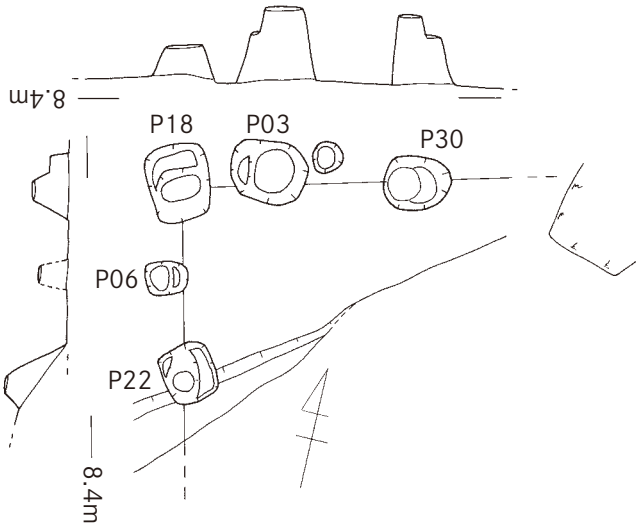
SD01 は 187 次調査区を南北にはしる溝状遺構である。断面は逆台形を呈し幅は検出面で 1.04 m、下面で 0.7 m、底のレベルは南端で 7.36 m、北側で 7.20 mをはかる。出土遺物は近世陶磁器に限られていることから近世の区画溝と推定される。

SB01 は、掘立柱建物の北西隅の可能性がある柱穴。隅丸方形や楕円形に近い掘り方である。柱間は南北で 2.1 m、東西で 2.3 m程度をはかる。

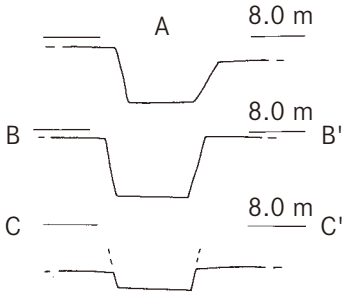
SP72 は 188 次調査区の西側で検出された焼土坑。長径 35㎝ほどの範囲で厚さ 5 ㎝ほどの焼土の堆積がみられた。土器片や須恵器の坏身が出土したことから古墳時代後期に比定される。住居跡の炉跡であった可能性がある。

SX51 は 188 次調査区の東端で検出された溝状遺構。柱穴 SP66 を切ることから、弥生後期終末以降の掘削とみられる。

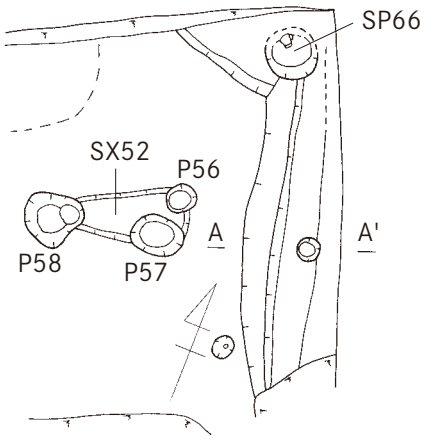


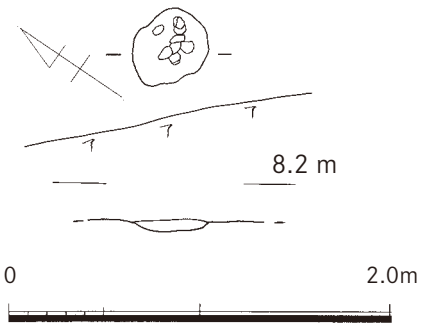


SB01 遺構実測図（1／80）

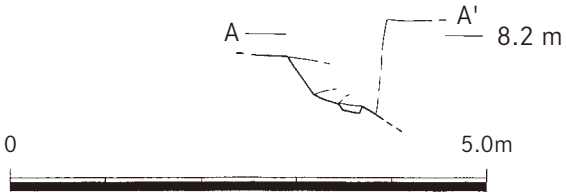


SD01 遺構実測図（1／80）





SP72 焼土坑実測図（1／40）



SX51 遺構実測図（1／80）

図７　那珂遺跡群 187・188 次調査区遺構実測図（1／80・1／40）

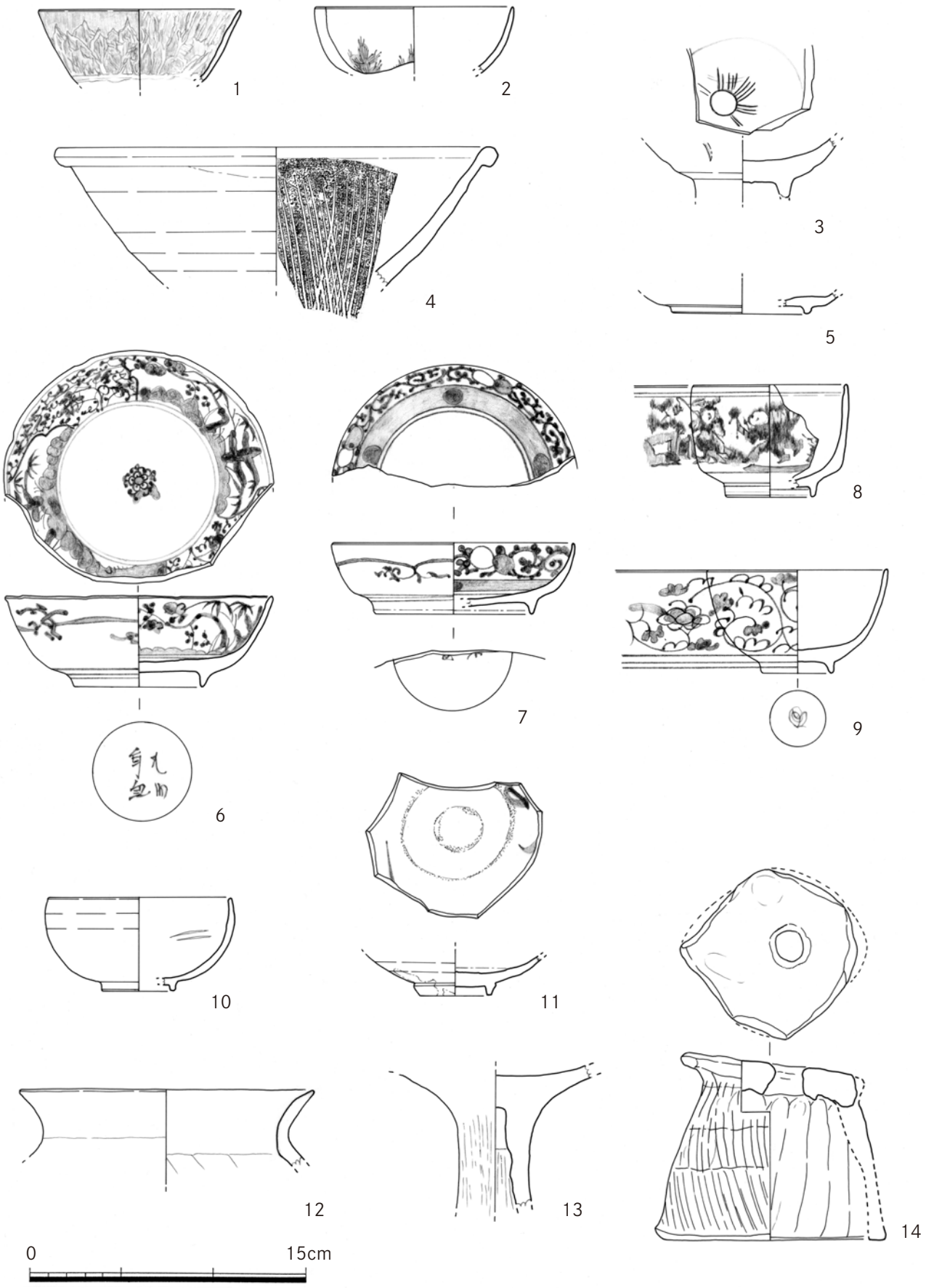


図８　那珂遺跡群 187 次調査遺物実測図１（１／３）

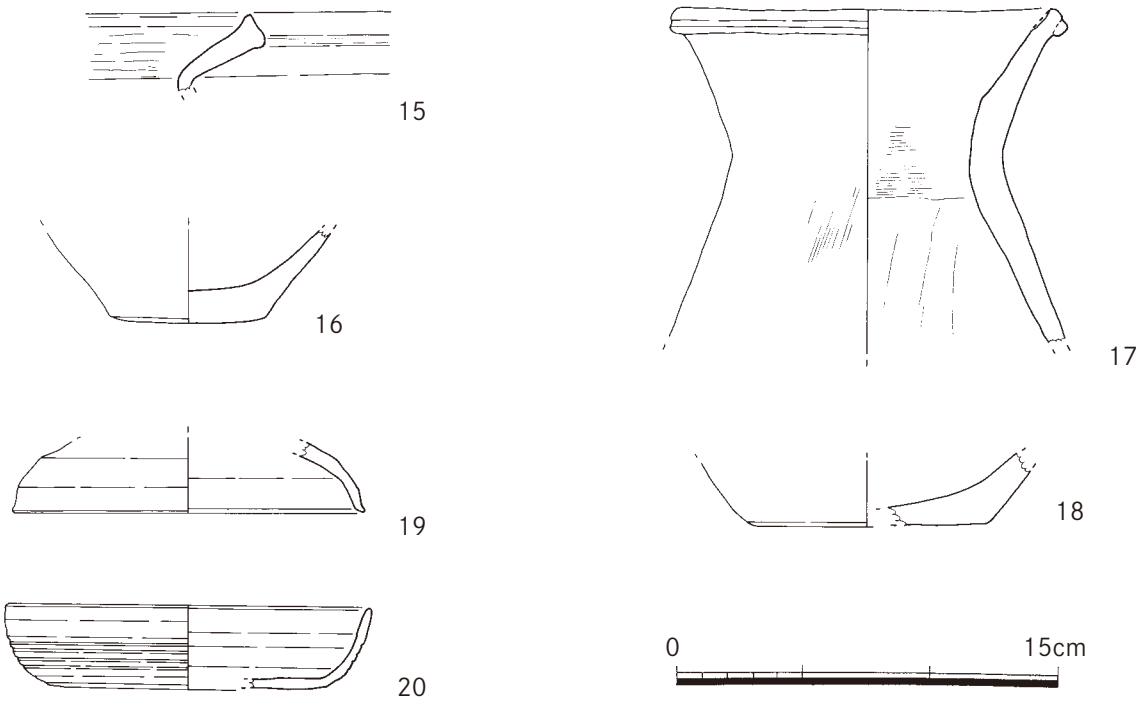


図９　那珂遺跡群 188 次調査遺物実測図２（１／３）

（３）出土遺物

SD01 出土遺物。

1 は内外に白泥を打ち付けた刷毛目から現川焼（長崎市）の小碗である。口径 11.0㎝。17 世紀末～18 世紀前葉にかけて製作された。

2 は白磁染付の肥前磁器の小碗である。口径 10.8㎝。18 世紀前半頃か。

3 は青磁碗。龍泉窯系とみられる。

4 は、施釉の擂鉢である。肥前の 18 世紀前半頃のものか。

5 は高台付の須恵器の底部。古代の遺物の混入したものとみられる。

SK05 出土遺物。

6 は肥前染付皿である。輪花で草花文を描き見込みの中央に五弁花を描く。高台底部に「大明年製」とある。口径 14.5㎝、器高 4.9㎝。17 世紀末頃か。

7 は肥前染付皿で内面にたこ唐草文､外面に草花文を描く。高台底部には｢大明年製｣とあったようだ。口径 13.2㎝、器高 3.9㎝。17 世紀末～ 18 世紀前葉か。

8 は肥前染付筒形碗で外面に二人の人物が描かれている。内側の圏線は朱描きである。口径 8.4㎝、器高 6.1㎝。17 世紀後半頃か。

9 は染付の小碗で、外面に花文と唐草文が描かれている。口径 9.8㎝、器高 5.6㎝。18 世紀前半頃か。

10 は京焼風の陶器丸碗。口径 9.0㎝、器高 5.1㎝。18 世紀後半頃か。

11 は染付の皿。見込みに蛇の目の釉剥ぎが施されている。

SX26

12 は土師器甕の口縁部。復元口径 16.0㎝。

採集遺物。

13 は弥生土器の高坏の坏部から脚部の破片である。弥生後期前葉。

SP09

14 は支脚。かつて沓形土器などといわれた。同型式の支脚と組み合わせて煮炊きなどに使われた。粗いハケ目調整で、受部の中央に孔がある。

188 次調査区

SP53

15 弥生土器の口縁部。く字状口縁の甕形土器で、端部を跳ね上げ状に摘まみあげている。弥生後期前葉に比定される。

SX51

16 は、凸レンズ状の底部をもつ弥生土器。弥生後期中頃に比定される。

SP66

17 は 188 次調査区の東端の柱穴で出土した器台である。現存高 13.5㎝、受部は外径で 15.5㎝をはかる。弥生後期後葉～終末に比定される。

18 は、弥生土器の底部。平底でやや外湾気味に立ち上がることから弥生後期前葉に比定される。

SX52

19 は須恵器の坏蓋。外径 14.0㎝をはかる。

SP72

20 は須恵器の坏身。外径 14.3㎝をはかる。

Ⅲまとめ

比恵・那珂遺跡群は、福岡平野の中央部、那珂川と御笠川にはさまれた後期更新世の台地上に立地する拠点集落である。この台地は花崗岩風化礫層を基盤とし、AS0-4 起源の八女粘土、鳥栖ローム層などを最上部とするもので、春日市から博多駅南 3 丁目 (博多区) 付近にかけての分布がみられる。

調査地は、東光寺剣塚古墳の東 130 m に位置している。東光寺剣塚古墳は、「磐井の乱」のあと 6 世紀中頃に造られた那珂川流域で最後となる大型の前方後円墳である。

『日本書紀』宣化天皇元年（536）5 月には「筑紫国は遠近の国々が朝貢してくる所、往来の関門とする所であり官家を那津のほとりに修造せよ」と記され、さらに「筑紫・肥・豊にわかれた屯倉を分割して那津のほとりに集約して有事に備えよ」の記事に続く。比恵・那珂遺跡群で検出された倉庫群など 6 ・ 7 世紀の遺構はこの頃、修造された「那津の官家」に関連するもので、西の諸国から運ばれた穀物などを備蓄・管理する博多湾岸の拠点として機能していたようである。

187 次調査では古墳時代から古代の掘立柱建物 、柱穴が検出され古墳時代から古代にかけての掘立柱建物の一部も確認された。東の 188 次調査では弥生後期の器台のほか古代の須恵器や土師器が出土した。

今回の調査は遺構の遺存状況から部分的な所見が得られたにとどまるが、弥生時代後期から古代にかけての集落の広がりだけは捉えることができたといえよう。

1　第 187 次調査区（東から）上は東光寺剣塚古墳

2　第 187・188 次調査区（北から）

3　第 187 次調査区（北から）

図版 2

4　第 187 次調査区（東から）

5　第 187 次調査区（南から）

6　第 187 次調査区 SD01（北から）

7　第 188 次調査区全景（南から）

8　第 188 次調査区 SP72（西から）

9　第 188 次調査区 SX51（東から）

10　第 188 次調査区 SP66（南から）

11　第 188 次調査区全景（西から）

図版 4

12　SB01（西から）

13　SB01（北から）

14　調査区全景（南から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかはちじゅうく
書名	那珂 89
副書名	―那珂遺跡群第 187・188 次調査報告―
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1476 集
編著者名	常松幹雄（編）
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810-8621　福岡県福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1
発行年月日	2023 年 3 月 23 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
なかいせきぐん 那珂遺跡群	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 はかたく 博多区 とうこうじまちいっちょうめ 東光寺町 1 丁目 240・243・244 番	40137	0085	33°34′29″	130°26′3″	2021.7.19 ～ 2021.9.14	210 + 86.25	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
那珂遺跡群 第187・188次	集落	弥生時代～古代、 近世	掘立柱建物・ 土坑・溝	弥生土器・ 須恵器・ 近世陶磁	

要約	那珂遺跡群は、福岡平野の中央部、那珂川と御笠川にはさまれた標高 9 m ほどの丘陵上に位置する。調査地は、那珂遺跡群の北、東光寺剣塚古墳の東に位置している。 遺構は、古墳時代から古代の掘立柱建物 、柱穴のほか近世の溝が検出された。 187次調査の出土遺物は、古墳時代から古代の掘立柱建物、柱穴では 6 世紀後半から 8 世紀頃の須恵器や土師器が出土した。近世の溝、土坑では陶磁器類が出土した。 188次調査の出土遺物は、弥生後期の器台のほか古代の柱穴では 6 世紀後半から 8 世紀頃の須恵器や土師器が出土した。 古墳時代から古代の掘立柱建物、柱穴は九州北部の 6 世紀後半から 8 世紀頃の様相を解明するうえで重要である。

那珂 89

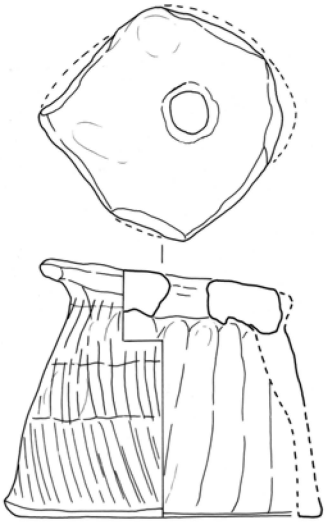
那珂遺跡群第 187・188 次調査報告
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第 1476 集

令和 5 年 3 月 2 3 日

発　行　福岡市教育委員
福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1

印　刷　有限会社 森田印刷所
福岡市中央区大手門 2 丁目 2 － 25

The General Report on the 187・188 Survey of Naka Ruins



187次出土

2023 Mar.

Board of Education of Fukuoka City